

【学生フォーラム】

囲碁を通して子どもは何が得られるか -10の姿の観点から-

岡崎女子短期大学 幼児教育学科第一部 亀井 美玖

【要旨】

現在、難関大学と言われる大学などでも囲碁が単位として取り上げられている。また、幼稚園でも囲碁をカリキュラムに取り入れているところもある。それほどの囲碁の魅力とは何か疑問に思い調査をした。大学のシラバスの調査からは、日本の伝統文化を通して、思考力を養い、人とのコミュニケーション能力を高められることが分かった。また、囲碁経験者・未経験者へのアンケート調査を通して、囲碁は10の姿の「思考力の芽生え」「道徳性・規範意識の芽生え」を中心に、様々な能力を養うことができると考えられていた。

1. 背景

私は囲碁を14年間習っており、高校受験前に囲碁の先生から、大学の単位として囲碁が取り入れられていると聞いた時、ゲームで単位が取れるということにとっても驚いた。確かに囲碁が強い人は頭がいいというイメージはあったが、大学の授業や保育のカリキュラムに取り入れられるほどの魅力とは何なのかという疑問が浮かんだ。ボードゲームは将棋やチェスなどほかにもある中、囲碁が選ばれる特別な魅力があるのかが気になったため、自分の14年間の囲碁経験を振り返りながら、囲碁の魅力を再確認したいと思い調査を行った。

2. 目的

囲碁が大学の単位として取り入れられている理由を調べるため、囲碁を単位として取り入れている大学のシラバス調査を行う。また、囲碁が子どもに与える影響とは何かを、「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」(以下「10の姿」という)に基づき作成したアンケート調査を囲碁経験者と未経験者を対象に行う。これらの結果から、囲碁の特別な魅力とは何かを考察する。

3. 調査の方法

囲碁を単位として取り入れている大学をインターネットで探し、授業のシラバスのキーワードやねらいの共通点から、囲碁が単位として取り入れられている理由をまとめた。また、囲碁を通して得られる力について、10の姿に基づき項目を作成したアンケート調査を大学生から高校生の囲碁経験者(5名)と未経験者(31名)を対象に行い、各項目の割合の算出を行い、結果の比較を行った。

4. 結果

(1) 大学シラバスの調査

a) 結果

囲碁を単位化している大学は、偏差値が50以下のところから70の難関大学と呼ばれる大学まで、幅広く囲碁が授業に取り入れられていることがわかった。(大学数:6、授業数:6) また、各大学の共通点としては、日本の伝統文化に触れることで歴史や礼儀を学ぶことや、論理的思考や柔軟な発想力を養うことに加え、コミュニケーション能力が身につくことなどの三項目が挙げられた。

b) 考察

国際化が進む一方で、昔の文化に触れる機会が少なくなっている中で、囲碁という伝統文化に触れながら様々な能力を養えることが魅力になっているのではないかと考える。そして、他のボードゲームとは違い、囲碁特有の自由な発想が、論理的思考や柔軟な発想力を養うことにつながっていると考えられているのではないかとと思われる。また囲碁は、老若男女、国籍問わず、対戦ができる囲碁を通して、様々な人と関わり、コミュニケーション能力が身につくと考えられているため、囲碁が単位として認められているのではないかと考える。

(2) 囲碁経験者・未経験者へのアンケート調査

a) 結果

囲碁経験者、未経験者の80%以上が選択した項目を以下に示す。

経験者	•自分の気持ちを調整する。[道徳性・規範意識の芽生え] (4名)
未経験者	•見通しを持って行動する。[健康な心と体] (26名) •自分の力で行うために考えたり、工夫したりする。[自立心] (27名)
共通	•自分の行動を振り返る。[道徳性・規範意識の芽生え] (経験者4名、未経験者25名) •様々な考えに触れる中で、自分と異なる考え方があることに気づく。[思考力の芽生え] (経験者4名、未経験者25名)

また、「自然との関わり・生命尊重」の「自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取る」は、囲碁未経験者は選択したのが0名だったのに対し、経験者は2名(40%)が選択していた。

b) 考察

調査前は、10の姿の「自然との関わり・生命尊重」の項目が囲碁経験の有無に関わらず少ないのではないかと考えていたが、実際には経験者の方が選択をする人が多かった。囲碁は「宇宙」や「世界」に例えられることが多く、経験者ほどそのイメージを持っている人が多いのではないかと考えられる。また、囲碁経験の有無に関わらず、上位の項目からは、囲碁は一人でできるものではなく、未経験者にとっても年長者とも関われるゲームであること、また、対局終了後に検討し、振り返ることから、自分の行動を振り返るイメージがあるのではないかと考える。

5. まとめと今後の課題

囲碁は、細かいルールや、碁石の配置にも決まりが少なく、柔軟性の高いものである。そのため、子どもが細かいルールを気にせず、自分の世界を好きに表現することができ、その過程で、論理的思考や柔軟な発想力が養われるのではないかと考える。今後は経験者の調査人数を増やし、結果を検証していきたい。また、子どもに対しても調査を行い、子どもはどんなところに囲碁の魅力を感じているのかを調査し、明らかにした上で囲碁の魅力を多くの人に広めていきたい。